

病 防 第 95 号
令和8年4月27日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

令和8年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

令和8年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 病 害 名 : トルコギキョウ黄化えそ病
- 2 病 原 菌 : トマト黄化えそウイルス (TSWV: *Tomato spotted wilt virus*)
- 3 発 生 地 域 : 沖縄本島
- 4 発 生 作 物 : トルコギキョウ

5 発生確認の経緯

令和7年11月、沖縄県糸満市のトルコギキョウで葉の黄化、退緑およびえそ症状が認められ、那覇植物防疫事務所に同定を依頼した結果、沖縄県では確認されていなかった *Tomato spotted wilt virus* (TSWV) が検出された。同年12月に沖縄本島の主要栽培地域で発生状況調査を行った結果、今帰仁村、読谷村及び糸満市で発生が確認された。

6 病 徴

葉に激しい退緑モザイク、白色のえそ輪紋およびえそ斑点を生じる(図1～3)。葉脈間に退色や白色のえそ斑を形成し、花弁に斑入りを生じることもある。成長点や茎葉などに生じたえそ斑は、症状が進行すると淡褐色となり、葉枯れや枝枯れに至る。症状の激しい株では草丈が伸びず、生育不良を起こす(図4)。

7 病原菌の特徴と伝染方法

病原ウイルスの TSWV はミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、チャノキイロアザミウマ等のアザミウマ類によって永続的に伝播される。媒介虫となるアザミウマ類は幼虫のみがウイルスを獲得でき、その後羽化した保毒成虫が伝搬する。なお、経卵伝染、種子伝染および土壌伝染はしない。汁液による伝染は可能だが、管理作業による汁液伝染の可能性は少ないと考えられている。

8 宿主植物

宿主範囲は極めて広く、ナス科野菜をはじめ、花き類、観葉植物等に感染し、野生植物を含め 900 種以上の植物が報告されている。

ナス科(トマト、ピーマン、ナス)、キク科(キク、レタス、ダリア)、ウリ科(キュウリ)、マメ科(ソラマメ、ササゲ)、ゴマ科(ゴマ)、アカザ科(ホウレンソウ)、リンドウ科(トルコギキョウ)、シソ科(サルビア)等の作物に感染する。野生植物ではキク科(タンポポ、ノゲシ、オニタビラコ)、タデ科(ギシギシ)、ナス科(イヌホオズキ)等で報告がある。

9 防除対策

- (1) 施設の開口部には防虫ネットを展張し、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
- (2) 施設内への粘着板の設置等により、アザミウマ類の早期発見・防除につなげる。
- (3) 施設内外の除草を徹底し、伝染源を除去する。また、施設内やその周辺では、生産に関係がない植物の栽培を控える。
- (4) 発病株は伝染源となるので、発見次第速やかに抜き取り、密封しほ場外に持ち出し処分する。
- (5) 栽培終了後は、アザミウマ類の施設外への飛び出しを防止するため、ハウスを密閉して蒸し込み、死滅させる。
- (6) 媒介虫であるアザミウマ類に対して薬剤防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を防ぐために、同系統薬剤の連用を避ける(参考資料:トルコギキョウで発生するチャノキロアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果、R3 普及に移す技術)。



図1 退緑症状



図2 えそ輪紋症状



図3 えそ斑点症状



図4 生育不良株 (矢印)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL:(本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

